

「まなびの広場」は那須教育事務所ホームページに掲載されます。  
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m56/system/desaki/desaki/nasu-kyouiku01.html

毎月第3日曜日は「家庭の日」

## 第31回大田原マラソン大会

11月23日(金)に第31回大田原マラソン大会が開催されました。大田原マラソンは昭和63年に始まった歴史ある大会で、制限時間4時間というレベルの高いランナーの大会として知られています。

北海道から沖縄まで全国各地からマラソンの部に約3,400名、10kmの部に約730名のランナーが集まりました。10kmの部には、前回の箱根駅伝で往路優勝を果たした東洋大学の学生が招待選手として参加しました。

大田原中学校吹奏楽部のファンファーレで美原公園陸上競技場をスタートし、10ヶ所の給水ポイントでは市内8中学校の生徒がランナーに元気を与え、道の駅では与一太鼓の演奏がランナーの背中を押し、大会に花を添えました。

走り終えたランナーは、無料配布のなめこ汁や栃木和牛を食べて、疲れを癒していました。

マラソンの部の上位入賞者は来年4月にフランスで開催されるパリマラソンに派遣されます。



## 第13回那須塩原ハーフマラソン

11月3日(土・祝)、くろいそ運動場を主会場に第13回那須塩原ハーフマラソンが開催されました。

秋晴れの下、今年4月のボストンマラソンで優勝した公務員ランナーの川内優輝さんをゲストに迎え、ハーフマラソンの部をはじめとする4種目で1,700人を超える参加者が力走しました。黒磯巻狩太鼓の演奏が大会を盛り上げるなか、国際的に活躍する川内さんをはじめ、多くのランナーに沿道から大きな声援が送られました。

また、本大会では、3年ぶりにファミリーと小学生を対象にした2kmの部が復活し、手をつないでゴールする親子や、懸命に走る未来のアスリートの姿に会場はおおいに盛り上がりました。

ゴール後、選手は毎年好評の無料配布のなめこ汁や、那須塩原産の牛乳を堪能。美味しいおもてなしと、ボランティアスタッフの温かい笑顔でレースの疲れを癒しました。



## 那須町のアナスク

那須町では平成30年度から、放課後子供教室として、アナザースクール、通称“アナスク”を試験的に運営しています。現在は、那須町立黒田原小学校の児童を対象に、放課後の学校を会場として実施しています。

アナスクは月に1~2回、部活動が無い水曜日に子供たちが希望する講座を地域のボランティアの方々から御協力を頂きながら実施しています。講座には、連続で実施する講座と、毎回異なるものを実施する講座があります。連続講座には、百人一首と生け花があり、回数を重ねるごとに子供たちのスキルも徐々に上進してきています。単発講座には、プログラミングやニュースポーツ、クッキング等、様々な講座があり、自分に合ったものを体験できるようになっています。

今後は、町内全小学校での展開を目指していく予定です。



## 本物の伝統芸能を楽しみました。

本県では、子供たちに一流の文化・芸術に触れる機会を提供すべく、毎年様々な文化関係事業を展開しています。本地区でも、9校の小中学校がこの事業を実施しました。

その中の一つ、「栃木県巡回公演(伝統芸能)事業」を紹介します。この事業は、子供たちに対し、優れた伝統芸能公演を直接鑑賞する機会を提供し、芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養を図ることを目的としています。今年度は、金田南中学校区1中2小合同で実施されました。江戸時代から続く伝統芸能である「狂言」の鑑賞では、登場人物の掛け合いが面白く、児童・生徒の笑い声も聞こえて来ました。鑑賞した生徒からは「貴重な体験ができた」という感想をいただきました。

次年度の募集も始まってきています。文化関係事業の一つである「巡回公演事業」は、来年度の優先地区となっておりますので、多くの子供たちが“本物”に触れる機会を提供できればと思います。

